認　定　書

国住参建第 429 号
令和 4 年 5 月 20 日

吉野石膏株式会社
代表取締役　須藤　永作 様

国土交通大臣　　斉藤　鉄夫

下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第八号並びに同法施行令第 108 条第一号及び第二号（外壁（耐力壁）：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
   PC030BE-4033(5)

2. 認定をした構造方法等の名称
   吹込み用セルローズファイバー断熱材充てん／パルプ繊維混入セメントけい酸カルシウム押出成形板・外装構造用面材[せっこうボード]表張／せっこうボード裏張／木製軸組造外壁

3. 認定をした構造方法等の内容
   別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

別添

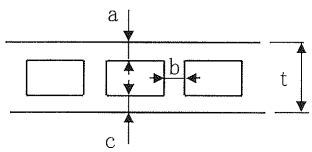
1．構造名

吹込み用セルローズファイバー断熱材充てん／パルプ繊維混入セメントけい酸カルシウム押出成形板・外装構造用面材[せっこうボード]表張／せっこうボード裏張／木製軸組造外壁

2．寸法

壁高及び壁幅については、構造計算等により構造安定性が確かめられた寸法とする。

3．材料構成等

項目		製品仕様
① 外装材	塗装パルプ繊維混入セメントけい酸カルシウム押出成形板	基材 パルプ繊維混入セメントけい酸カルシウム押出成形板 規格　JIS A 5422 組成(質量%) けい酸カルシウム化合物　71～96 有機質系繊維（パルプ等）　3～6 有機質系混和材（セルロース粉等）　1～3 無機質系混和材（ﾏｲｶ・ﾊﾟｰﾗｲﾄ等）　0～20 ※但し、有機質系繊維と有機質系混和材の合計は8以下とする 表面塗装 種類：下記のいずれかによる。 なし、アクリル系樹脂、アクリルウレタン系樹脂、アクリルシリコーン系樹脂、無機質系（シラン系）、またはこれらの組合せ 塗布量(g/m²)：100(±10)以下（有機質固形分量） 裏面塗装 種類：下記のいずれかによる。 なし、アクリル系樹脂 塗布量(g/m²)：30(±3)以下（有機質固形分量） 比重(g/cm³)：1.1(±0.2)(絶乾) 厚さ(mm)：16(±1.3)～25(±2) 大きさ(mm) 働き幅：455(±1)～600(±1) 長さ：3,030(±1)以下 （大きさは一般部における寸法を示す。） 端部形状(外装材相互の重なりと隙間) 重なり(mm)：11(±1)～15(±1.5) 隙間(mm)：3(±0.3)以下 断面形状 形状：中空品または中実品 最小厚さ(mm)：11(±1)以上 エンボス・溝模様の容積欠損率(%)：12(±1.2)以下 （但し、板厚16mmを超える場合は裏面から16mmの位置での欠損率とする） 中空率(%)：3(±0.3)～16(±1.6)(中空品の場合) （但し、板厚16mmを超える場合は厚さを増した分だけ中空部高さを増し、16%を超えて中空率を上げることができる） ※中空の形状（mm）（中空品の場合） 中空部(表面肉厚a)：3(±0.3)以上 中空部(肉厚b)　：3.5(±0.35)以上 中空部(表面肉厚c)：4(±0.4)以上  表面形状 平滑、粗面、エンボス、溝模様またはこれらの組合せ

つづく

つづき

項　　目		製　品　仕　様
①外装材	塗装パルプ繊維混入セメントけい酸カルシウム押出成形板	水密材(あり又はなし) 　種類：エラストマー系樹脂 　使用量(g/m)：3(±3)以下 縦目地の種類：下記のいずれかによる。 　・目透かし目地(目地幅 11(±1)mm 以下) 　・金属製ジョイナー目地 　・本実目地 　・合いじゃくり目地 　・突付け目地 張方：横張 取付け工法：a 又は b のいずれかによる。 　a. 外装材留金具工法 　b. 胴縁併用外装材留金具工法
	外装構造用面材	種類：せっこうボード 規格等：a から c のいずれかによる。 　a. ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板 　　規格：準不燃材料認定番号 QM-0954-1 　　形状：平板 　　端部の形状：スクエアー、テーパー又はベベル 　　厚さ(mm)：9.5(±0.95) 　　密度(g/cm^3)：0.8(±0.08) 　b. ボード用原紙張ガラス繊維混入せっこう板 　　規格：準不燃材料認定番号 QM-0955-1 　　形状、端部の形状及び密度は前記の a に同じ。 　　厚さ(mm)：9.5(±0.95)～12.5(±1.25) 　c. 両面ボード用原紙張せっこう板 　　規格：不燃材料認定番号 NM-4127 　　形状及び端部の形状は前記の a に同じ。 　　厚さ(mm)：9.5(±0.95)～12.5(±1.25) 　　密度(g/cm^3)：1.0(±0.1) 横目地数：1 本(1 列)(あり又はなし) (横目地数は、壁高さ(土台と横架材等の間の寸法)が 3,000mm 以下の場合における本数(列数)を示す。)

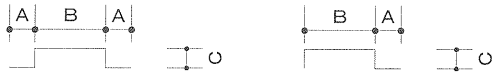
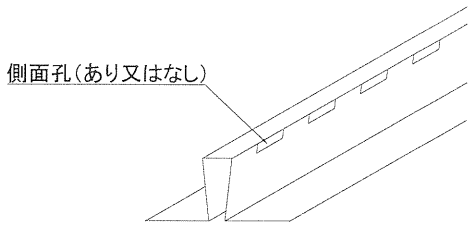
項　　目		製　品　仕　様
②木製下地材	柱(荷重支持部材)	種類：a から d のいずれかによる。 a. 構造用集成材(JAS) b. 構造用製材(JAS) c. 構造用単板積層材(JAS) d. 平成 12 年建設省告示第 1452 号第五号に規定する無等級材又は第六号に規定する木材 断面寸法(mm)：105 以上×105 以上 密度(g/cm³)：0.35(±0.05)以上 取付け間隔(mm) 柱と間柱の間隔: 500(±50)以下(一般部における寸法を示す。)
	中間柱	種類：a から e のいずれかによる。 a. 構造用製材、造作用製材又は下地用製材(JAS) b. 構造用集成材又は造作用集成材(JAS) c. 構造用単板積層材又は造作用単板積層材(JAS) d. 枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材(JAS) e. 平成 12 年建設省告示第 1452 号第五号に規定する無等級材又は第六号に規定する木材 断面寸法(mm)：45 以上×105 以上 取付け間隔(mm) 中間柱と間柱の間隔：500(±50)以下(一般部における寸法を示す。) 中間柱と柱の間隔、又は間柱を介する場合の中間柱相互の間隔：1,000(±100)以下(一般部における寸法を示す。)
	間柱	種類：前記の中間柱に同じ。 断面寸法(mm)：27 以上×105 以上 取付け間隔(mm) 間柱と柱又は中間柱の間隔：500(±50)以下(一般部における寸法を示す。)
③断熱材	中空部断熱材	吹込み用セルローズファイバー 規格：JIS A 9523 厚さ(mm)：150(±15)以下 密度(kg/m³)：40(±4)～55(±5)
④内装材	せっこうボード	規格：JIS A 6901(せっこうボード製品) 形状：平板 表面の形状：平滑 端部の形状：スクエアー、テーパー又はベベル 厚さ(mm)：9.5(±0.5)～25(±0.5) 密度(g/cm³)：0.65 以上 横目地数：1 本(1 列)(あり又はなし) (横目地数は、壁高さ(土台と横架材等の間の寸法)が 3,000mm 以下の場合における本数(列数)を示す。)

項目		製品仕様
⑤副構成材料	胴縁(胴縁併用外装材留金具工法仕様の場合に用いる。)	仕様：1)又は2) 1)なし 2)あり(胴縁併用外装材留金具工法仕様の場合) 種類：aからiのいずれかによる。 a.製材(無等級材又はJAS) b.集成材(無等級材又はJAS) c.構造用合板(JAS) d.化粧ばり構造用合板(JAS) e.普通合板(JAS) f.構造用パネル(JAS) g.単板積層材(JAS) h.パーティクルボード(JIS A 5908) i.MDF(JIS A 5905) 断面寸法(mm) 一般部：12(±1.2)以上×40(±4)以上 外装材縦目地部：a又はbのいずれかによる。 a：12(±1.2)以上×80(±8)以上の1列使い b：12(±1.2)以上×40(±4)以上の2列使い 取付け間隔(mm)：500(±50)以下
	補強用胴縁(補強用下地材を用いる場合に取付ける。)	仕様：1)又は2) 1)なし 2)あり(補強用下地材を用いる場合) 種類：前記の胴縁に同じ。 断面寸法(mm)：5(±0.5)以上×40(±4)以上 取付け間隔(mm)：500(±50)以下
	受材及び補強用下地材(必要に応じて取付ける。)	仕様：あり又はなし 種類：前記の中間柱に同じ。 断面寸法(mm)：27(±2.7)以上×27(±2.7)以上
	防水紙(必要に応じて取付ける。)	仕様：あり又はなし 種類：aからfのいずれかによる。 a.透湿防水シート（JIS A 6111） b.ポリエチレン樹脂系 c.ポリエステル樹脂系 d.ポリプロピレン樹脂系 e.上記b～dの組み合わせ f.上記a～eにアルミニウム表面処理を施したもの 厚さ(mm)：0.5(±0.05)以下
	中空部断熱材吹込み施工用ネット（必要に応じて取付ける。）	仕様：あり又はなし 種類：aからdのいずれかによる。 a.ポリエチレン樹脂系 b.ポリエステル樹脂系 c.ポリプロピレン樹脂系 d.上記a～cを組み合わせたもの

項　　目		製　品　仕　様
⑤副構成材料	防湿気密フィルム(必要に応じて取付ける。)	仕様：あり又はなし 種類：aからhのいずれかによる。 a.住宅用プラスチック系防湿フィルム(JIS A 6930) b.包装用ポリエチレンフィルム(JIS Z 1702) c.農業用ポリエチレンフィルム(JIS K 6781) d.ポリエチレン樹脂系 e.ポリエステル樹脂系 f.ポリプロピレン樹脂系 g.ポリアミド樹脂系 h.上記a～gにポリマーコーティングを施したもの 厚さ(mm)：0.2(±0.02)以下
	外装材留金具	種類：aからfのいずれかによる。 a.冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305) b.熱間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4304) c.溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) d.溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) e.溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) f.溶融亜鉛－アルミニウム－マグネシウム合金めっき鋼板(JIS G 3323) 寸法(mm)：幅44(±4)以上、高さ50(±5)以上 ツメの掛かり代合計面積(mm²)：183(±18)以上（壁面見附面積：ΣAn+ΣBn) 厚さ(mm)：0.8(±0.08)以上 ふかし厚さ(mm)：5(±0.5)以上 留付け間隔(mm)：鉛直方向；外装材の働き幅に応じた間隔以下 水平方向；500(±50)以下
	外装材の縦目地部の処理材	種類:1),2)の併用、1),3)の併用又は4)のみのいずれかによる。 1)シーリング材 種類：下記のいずれかによる。 建築用シーリング材(JIS A 5758)、ポリウレタン系、シリコーン系、ポリイソブチレン系、変成シリコーン系、ポリサルファイド系、アクリルウレタン系又はアクリル系 充てん高さ(mm)：5(±0.5)以上 2)バックアップ材 種類：下記のいずれかによる。 ポリエチレン系、ポリスチレン系、ポリプロピレン系、ポリエチレン酢酸ビニル系、ポリ塩化ビニル系、ポリエチレンテレフタレート系、ポリウレタン系、ポリオレフィン系、シリコーン系、アクリル系、フェノール系又は合成ゴム系 充てん厚さ(mm)：3(±0.3)以上

つづく

つづき

項　　目		製　品　仕　様
⑤ 副構成材料	外装材の縦目地部の処理材	3)ハット形ジョイナー 種類及び規格：下記のいずれかによる。 ・溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3302) ・塗装溶融亜鉛めっき鋼板(JIS G 3312) ・電気亜鉛めっき鋼板(JIS G 3313) ・溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3317) ・塗装溶融亜鉛－5%アルミニウム合金めっき鋼板(JIS G 3318) ・溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3321) ・塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板(JIS G 3322) ・溶融亜鉛－アルミニウム－マグネシウム合金めっき鋼板(JIS G 3323) ・熱間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4304) ・冷間圧延ステンレス鋼板(JIS G 4305) ・ポリ塩化ビニル被覆金属板(JIS K 6744) 厚さ(mm)：0.2(±0.02)以上 形状及び寸法(mm)：形状はｉ)又はⅱ)のいずれかによる。 ｉ)　ⅱ)  A：3(±1)以上、B：11(±1)以下、C：3(±1)以上 側面孔（あり又はなし） 孔形状：3(±0.3)×10(±1)以下 間隔　：20(±2)以上  4)金属製ジョイナー 種類及び規格：上記ハット形ジョイナーに同じ。 厚さ(mm)：0.2(±0.02)以上 形状：H形
	スペーサー(必要に応じて取付ける。)	仕様：あり又はなし 種類：ａからｈのいずれかによる。 a.ポリプロピレン b.ポリエチレン c.ポリエステル d.ゴム系 e.木製 f.繊維強化セメント板 g.繊維板 h.せっこう板 寸法(mm)：幅 50(±5)以下、長さ 150(±15)以下 使用量(g)：1箇所あたり 9.5(±1)以下 取付け間隔：外装材の働き幅に応じた間隔以上
	目地処理材(必要に応じて処理する。)	仕様：あり又はなし 外装構造用面材用 種類：せっこう系又は炭酸カルシウム系 塗布量(g/m)：10(±1)以上

つづく

つづき

項　　目		製　品　仕　様
⑤副構成材料	目地処理材(必要に応じて処理する。)	せっこうボード用 種類：せっこう系又は炭酸カルシウム系 塗布量(g/m)：10(±1)以上 ガラス繊維テープ又は紙テープの寸法(mm)：厚さ0.05(±0.01)以上、幅20(±2)以上 目地処理方法 必要に応じて、目地処理材のみで又は目地処理材とガラス繊維テープ等を併用して処理する。
	留付け材	外装材留金具固定用 種類及び寸法：aからcのいずれかによる。 a.鋼製又はステンレス鋼製スクリューくぎ 寸法(mm)：φ1.7(±0.2)以上×L25(±2.5)以上 b.鋼製又はステンレス鋼製リングくぎ 寸法(mm)：φ1.7(±0.2)以上×L25(±2.5)以上 c.鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ2.1(±0.2)以上×L25(±2.5)以上 留付け本数：外装材留め金具1個につき1本以上 外装材固定用 仕様：あり又はなし 種類及び寸法：aからcのいずれかによる。 a.鋼製又はステンレス鋼製スクリューくぎ 寸法(mm)：φ1.8(±0.2)以上×L32(±3.2)以上 b.鋼製又はステンレス鋼製リングくぎ 寸法(mm)：φ1.8(±0.2)以上×L32(±3.2)以上 c.鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ3.0(±0.3)以上×L32(±3.2)以上 留付け間隔(mm)：3,000(±300)以下(外装材1枚につき1本以上) 外装構造用面材固定用 種類及び寸法：a又はbのいずれかによる。 a.鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：φ1.7(±0.2)以上×L25(±2.5)以上 b.鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ2.1(±0.2)以上×L25(±2.5)以上 留付け間隔(mm)：200(±20)以下

項　　目		製　品　仕　様
⑤副構成材料	留付け材	胴縁固定用 仕様：1)又は2) 1)なし 2)あり(胴縁を用いる場合) 種類及び寸法：a又はbのいずれかによる。 a.鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：φ1.8(±0.2)以上×L32(±3.2)以上 b.鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ3.0(±0.3)以上×L32(±3.2)以上 留付け間隔(mm)：500(±50)以下 補強用胴縁固定用 仕様：1)又は2) 1)なし 2)あり(補強用胴縁を用いる場合) 種類及び寸法：a又はbのいずれかによる。 a.鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：φ1.7(±0.2)以上×L25(±2.5)以上 b.鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ2.1(±0.2)以上×L25(±2.5)以上 留付け間隔(mm)：3,000(±300)以下 受材固定用 仕様：1)又は2) 1)なし 2)あり(受材を用いる場合) 種類及び寸法：a又はbのいずれかによる。 a.鋼製又はステンレス鋼製くぎ 寸法(mm)：φ1.8(±0.2)以上×L32(±3.2)以上 b.鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ3.0(±0.3)以上×L32(±3.2)以上 留付け本数：片側1本以上 補強用下地材固定用 仕様：1)又は2) 1)なし 2)あり(補強用下地材を用いる場合) 種類及び寸法：前記の受材固定用に同じ。 留付け本数：片側1本以上 防水紙仮留め用 仕様：1)又は2) 1)なし 2)あり (防水紙を用いる場合) 種類及び仕様：aからcのいずれかによる。 a.ブチルゴムテープ又はアクリルテープ 寸法(mm)：厚さ0.5(±0.1)以下、幅50(±5)以下 貼付け間隔(mm)：455(±45.5)以上 b.スプレーのり 塗布量(g/m)：30(±3)以下 塗布間隔(mm)：455(±45.5)以上 c.ステープル 寸法(mm)：幅10(±1)以上、長さ6(±1)以上

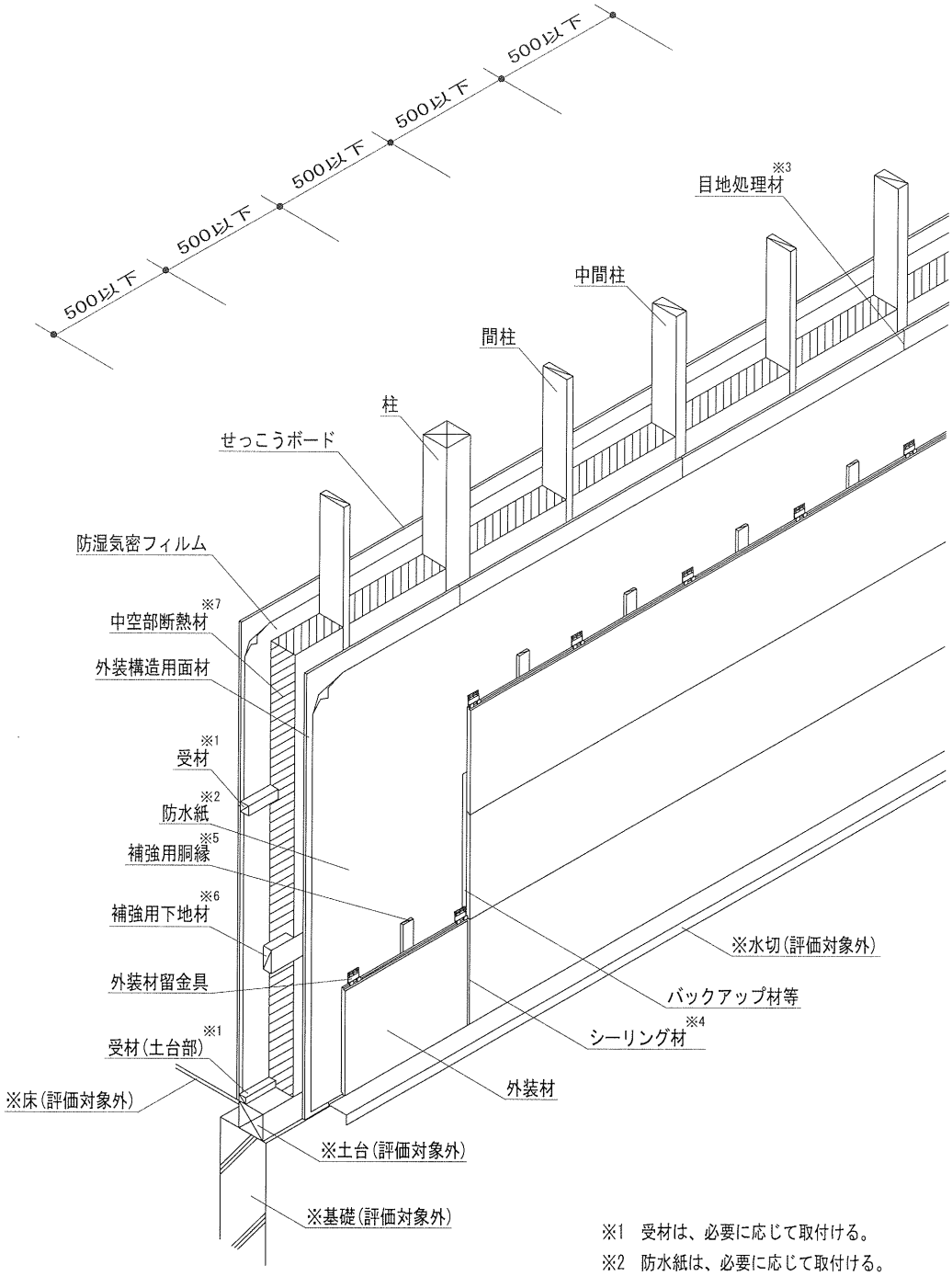
項　　目		製　品　仕　様
⑤副構成材料	留付け材	中空部断熱材吹込み施工用ネット固定用 仕様：1)又は2) 1)なし 2)あり（中空部断熱材吹込み施工用ネットを用いる場合） 種類及び仕様：aからcのいずれかによる。 a.ブチルゴムテープ又はアクリルテープ 寸法(mm)：厚さ0.5(±0.1)以下、幅50(±5)以下 b.スプレーのり 塗布量(g/m)：30(±3)以下 c.ステープル 寸法(mm)：幅10(±1)以上、長さ6(±1)以上 防湿気密フィルム仮留め用 仕様：1)又は2) 1)なし 2)あり（防湿気密フィルムを用いる場合） 種類及び仕様：aからcのいずれかによる。 a.ブチルゴムテープ又はアクリルテープ 寸法(mm)：厚さ0.5(±0.1)以下、幅50(±5)以下 貼付け間隔(mm)：500(±50)以上 b.スプレーのり 塗布量(g/m)：30(±3)以下 塗布間隔(mm)：500(±50)以上 c.ステープル 寸法(mm)：幅10(±1)以上、長さ6(±1)以上 せっこうボード固定用 鋼製又はステンレス鋼製ねじ 寸法(mm)：φ3.8(±0.4)以上×L25(±2.5)以上 留付け間隔(mm)：200(±20)以下

4．構造説明図

（1）外装材留金具工法仕様

①透視図（屋外側）

（単位：mm）



※1　受材は、必要に応じて取付ける。

※2　防水紙は、必要に応じて取付ける。

※3　目地処理材は、必要に応じて処理する。

※4　シーリング材は、バックアップ材又は
ハット形ジョイナーとの併用に限る。

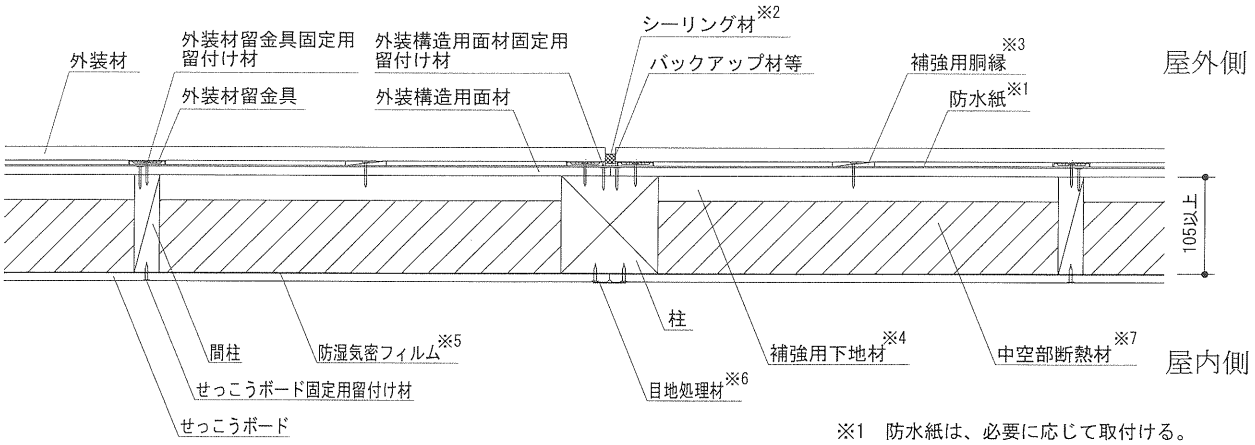
※5　補強用胴縁は、補強用下地材を用いる
場合に取付ける。

※6　補強用下地材は、必要に応じて取付ける。

※7　必要に応じて吹込み施工用ネットを併用する。

②水平断面図

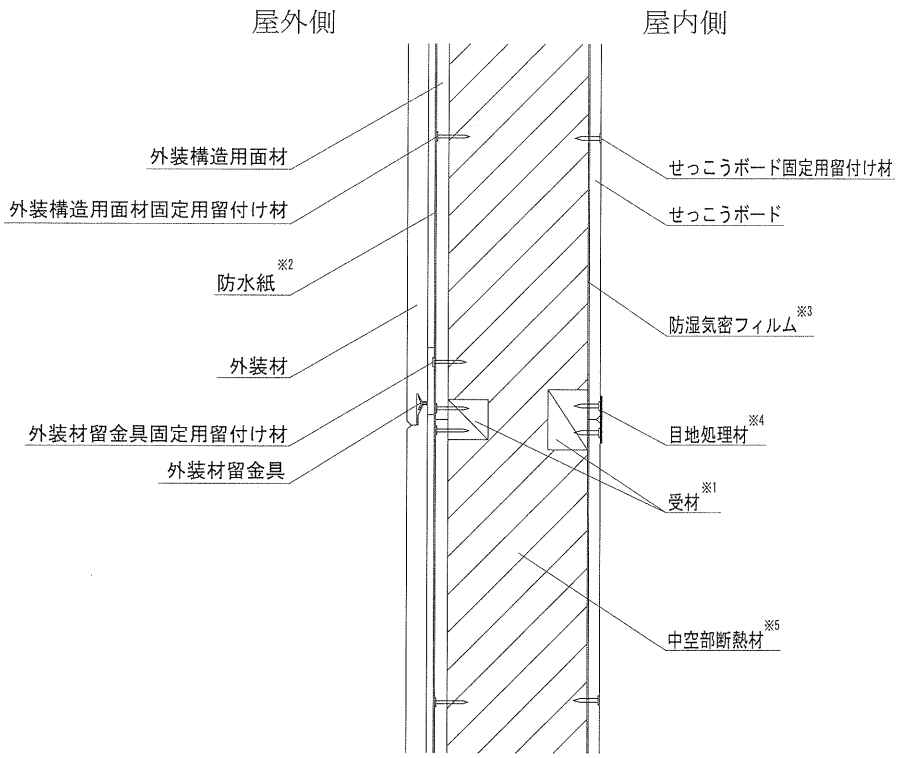
（単位：mm）



※1　防水紙は、必要に応じて取付ける。
※2　シーリング材は、バックアップ材又はハット形ジョイナーとの併用に限る。
※3　補強用胴縁は、補強用下地材を用いる場合に取付ける。
※4　補強用下地材は、必要に応じて取付ける。
※5　防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。
※6　目地処理材は、必要に応じて処理する。
※7　必要に応じて吹込み施工用ネットを併用する。

③鉛直断面図

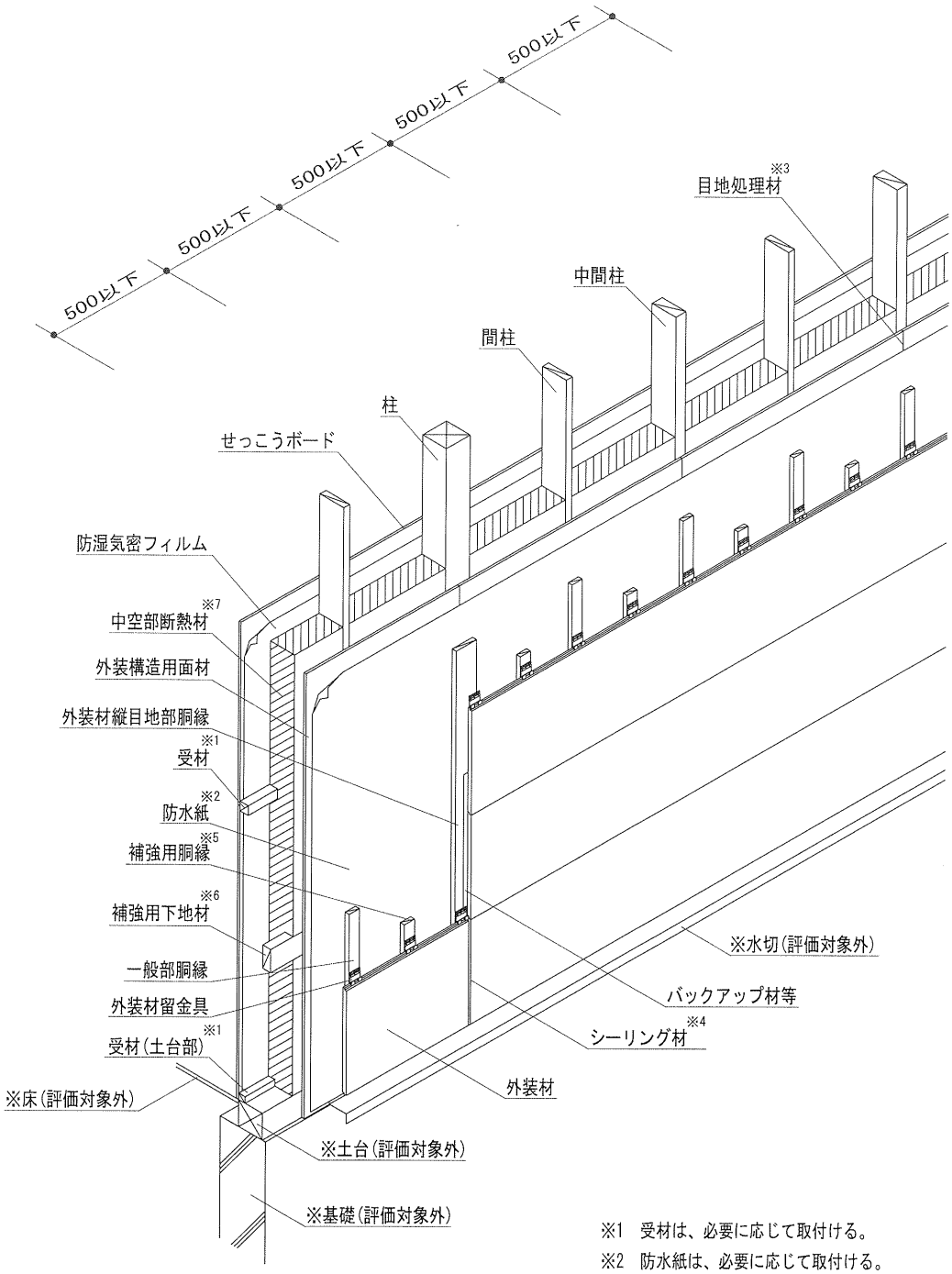
（単位：mm）



※1　受材は、必要に応じて取付ける。
※2　防水紙は、必要に応じて取付ける。
※3　防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。
※4　目地処理材は、必要に応じて処理する。
※5　必要に応じて吹込み施工用ネットを併用する。

(2) 胴縁併用外装材留金具工法仕様
①透視図（屋外側）

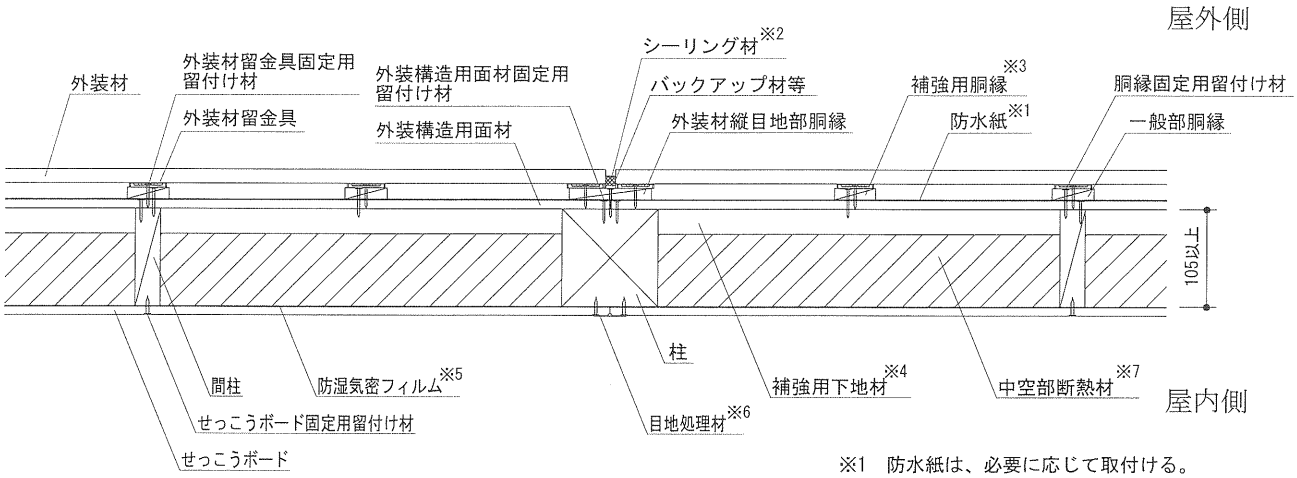
（単位：mm）



※1 受材は、必要に応じて取付ける。
※2 防水紙は、必要に応じて取付ける。
※3 目地処理材は、必要に応じて処理する。
※4 シーリング材は、バックアップ材又は
ハット形ジョイナーとの併用に限る。
※5 補強用胴縁は、補強用下地材を用いる
場合に取付ける。
※6 補強用下地材は、必要に応じて取付ける。
※7 必要に応じて吹込み施工用ネットを併用する。

②水平断面図

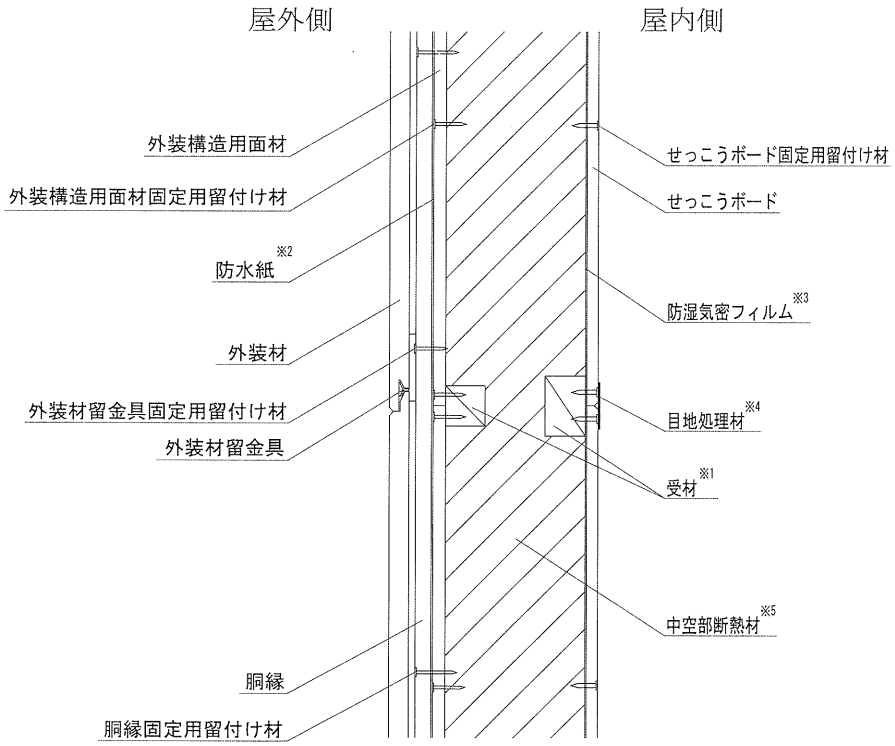
（単位：mm）



※1　防水紙は、必要に応じて取付ける。
※2　シーリング材は、バックアップ材又はハット形ジョイナーとの併用に限る。
※3　補強用胴縁は、補強用下地材を用いる場合に取付ける。
※4　補強用下地材は、必要に応じて取付ける。
※5　防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。
※6　目地処理材は、必要に応じて処理する。
※7　必要に応じて吹込み施工用ネットを併用する。

③鉛直断面図

（単位：mm）

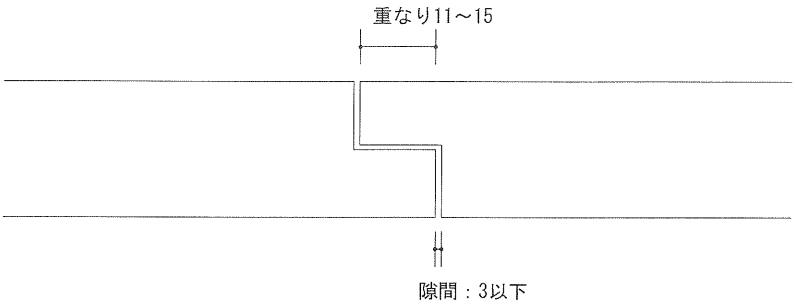


※1　受材は、必要に応じて取付ける。
※2　防水紙は、必要に応じて取付ける。
※3　防湿気密フィルムは、必要に応じて取付ける。
※4　目地処理材は、必要に応じて処理する。
※5　必要に応じて吹込み施工用ネットを併用する。

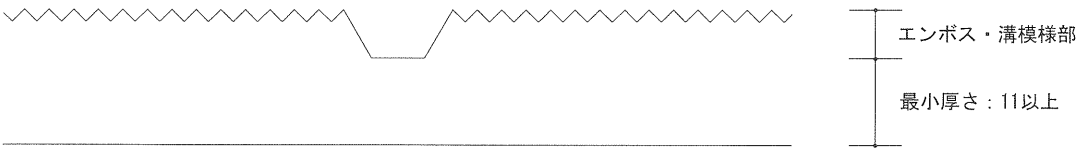
(3) 外装材の端部形状および断面形状の概略図

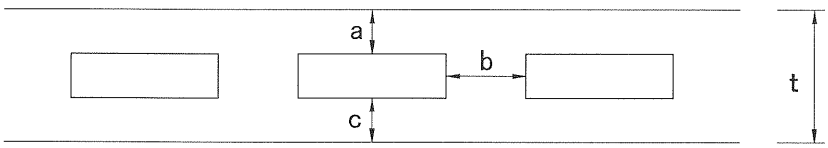
（単位：mm）

①端部形状



②断面形状



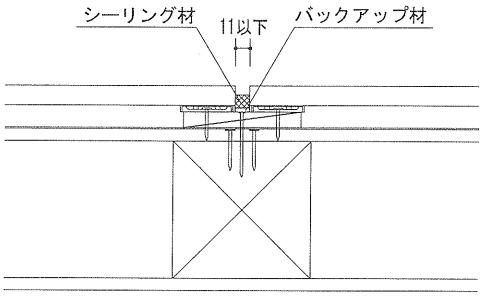


厚さ t	16以上
a	3以上
b	3.5以上
c	4以上

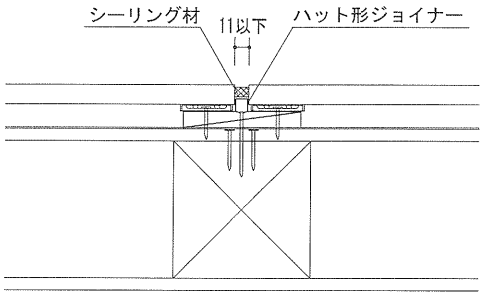
(4) 外装材の縦目地の概略図
(胴縁併用外装材留金具工法仕様の場合の例)

(単位：mm)

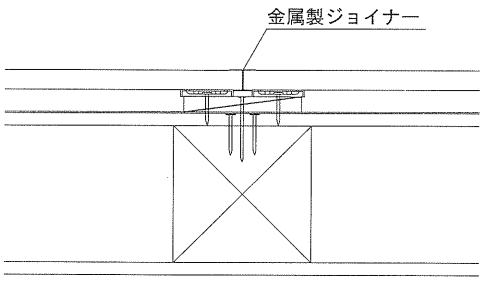
① 目透かし目地
(バックアップ材＋シーリング材)



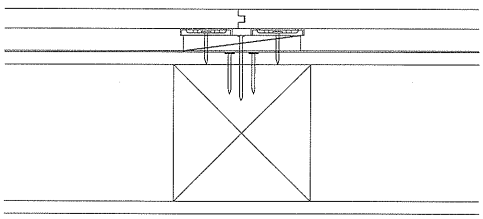
② 目透かし目地
(ハット形ジョイナー＋シーリング材)



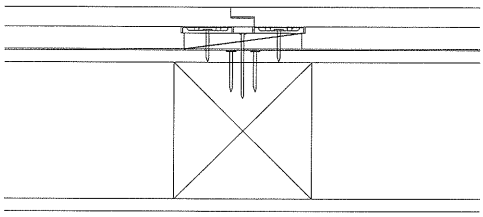
③ 金属製ジョイナー目地



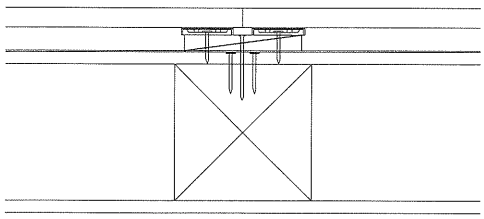
④ 本実目地



⑤ 合いじゃくり目地

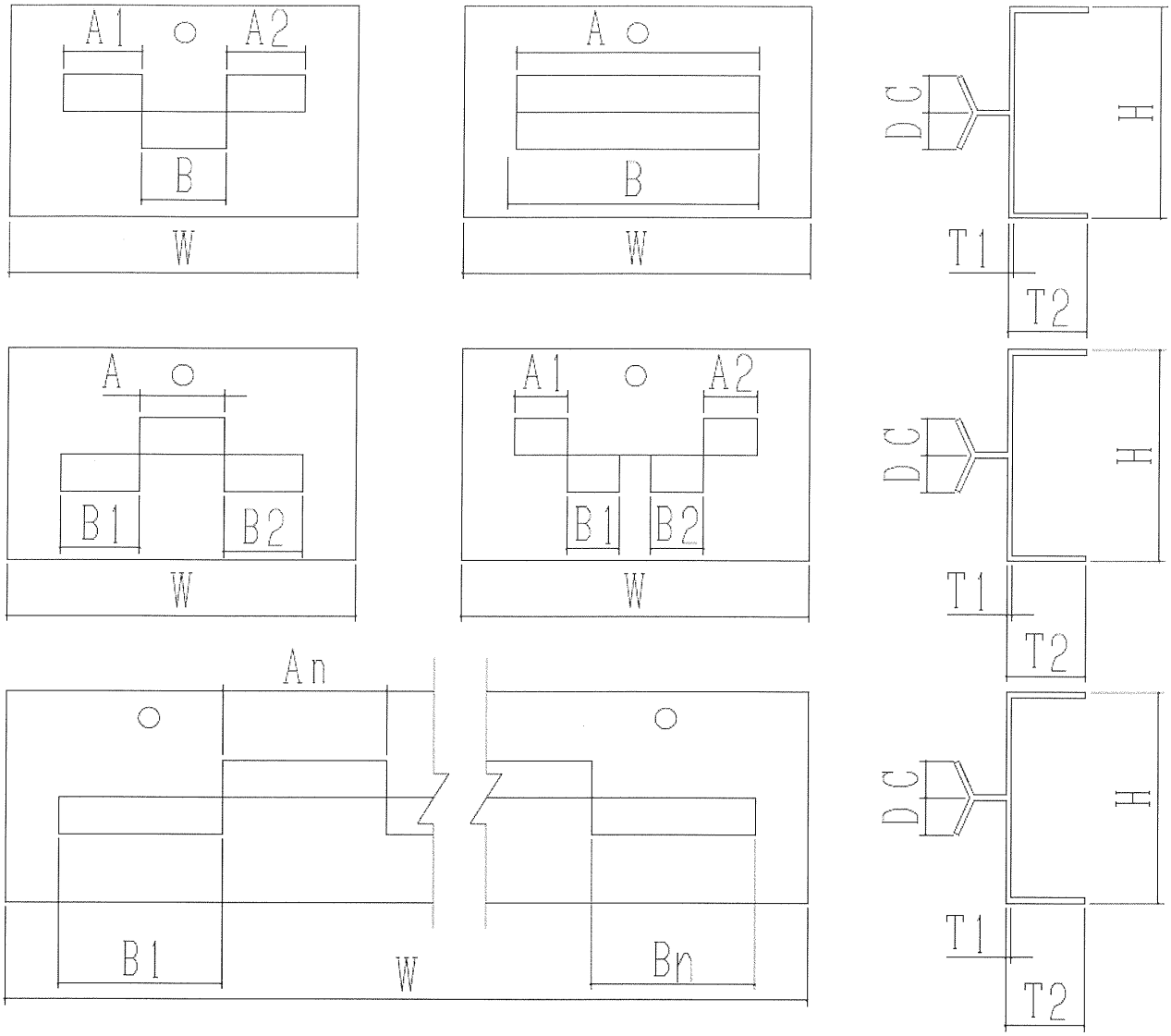


⑥ 突付け目地



(5) 外装材留金具の概要図

(単位：mm)



ΣAn＋ΣBn (mm²)	C	D	H	T 1	T 2	W
183(±18) 以上	6.7(±0.7) 以上	5.5(±0.6) 以上	50(±5) 以上	0.8(±0.08) 以上	5(±0.5) 以上	44(±4) 以上

5．施工方法

(1) 木製下地材の組立て

柱を土台に取付ける。柱と柱の間に断面寸法が27mm以上×105mm以上の間柱を500mm以下の間隔で配置し、土台に取付ける。この時、外装構造用面材又は内装材の縦目地部となる位置には断面寸法が45mm以上×105mm以上の中間柱又は柱を使用する。必要に応じて、受材を外装構造用面材等の横目地となる位置に配置し、φ1.8mm以上×L32mm以上の鋼製くぎ等で、片側1本以上、柱、間柱、中間柱等に取付ける。必要に応じて、補強用胴縁を取付ける場合には、補強用下地材を配置し、φ1.8mm以上×L32mm以上の鋼製くぎ等で、片側1本以上、柱、間柱、中間柱等に取付ける。

(2) 外装構造用面材の取付け

外装構造用面材をあらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、φ1.7mm以上×L25mm以上の鋼製くぎ等で、200mm以下の間隔で木製下地材に取付ける。必要に応じて、横目地を設ける場合は、高さ3,000mmに対して1本とする。

なお、外装構造用面材の目地部は、必要に応じて目地処理材を施し、平滑に仕上げる。

(3) 防水紙の仮留め

必要に応じて、防水紙をたるみ、しわ等が生じないようにブチルゴムテープ等で外装構造用面材に仮留めする。継ぎ目の重なりは500mm以下とする。

(4) 胴縁の取付け(胴縁併用外装材留金具工法仕様の場合に取付ける。)

胴縁は、幅40mm以上のものを500mm以下の間隔で柱、間柱及び中間柱にあたる箇所に配置し、φ1.8mm以上×L32mm以上の鋼製くぎ等で500mm以下の間隔で柱、間柱、中間柱等に取付ける(必要に応じて胴縁に下穴を開ける)。なお、外装材において、縦目地を設ける箇所には、幅80mm以上のもの1列又は幅40mm以上のもの2列を配置する。

(5) 補強用胴縁の取付け

必要に応じて、補強用胴縁は、幅40mm以上のものを500mm以下の間隔で胴縁間（柱、間柱及び中間柱間）に配置し、φ1.7mm以上×L25mm以上の鋼製くぎ等を用いて、3,000mm以下の間隔で補強用下地材又は受材に取付ける(必要に応じて補強用胴縁に下穴を開ける)。

(6) 外装材留金具の取付け

外装材留金具を、胴縁、補強用胴縁、防水紙又は外装構造用面材の表面に働き幅間隔で、φ1.7mm以上×L25mm以上の外装材留金具固定用鋼製スクリューくぎ等を用いて、外装材を張付けながら取付ける。但し、通気層と同じ厚さの補強用胴縁を用いる場合、補強用胴縁には外装材留金具を取付けなくてもよい。

(7) スペーサーの取付け

必要に応じて、スペーサーをブチルゴムテープ等で胴縁、補強用胴縁、防水紙又は外装構造用面材の表面に取付ける。

(8) 外装材の取付け

外装材をあらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、留金具にはめ込みながら張り上げる。外装材の縦目地は、柱等の下地がある場所で合わせる。取付けは、目地通りよく、不陸、目違いのないように行う。必要に応じて、φ1.8mm以上×L32mm以上の鋼製スクリューくぎ等を用いて、胴縁、補強用胴縁又は柱、間柱、中間柱等に取付ける。外装材の縦目地の目地処理は、以下の方法で行う。

①目透かし目地

目透かし目地を設ける場合には、目地幅11mm以下になるように外装材を取付け、バックアップ材等を併用して、シーリング材を充てん高さ5mm以上となるように隙間なく充てんする。

②金属製ジョイナー目地

H形金属製ジョイナーに外装材をはめ込み、外装材を留付けて押える。

③本実目地

外装材の重ね代及び隙間は指定寸法を確保し、表面側・裏面側のいずれかの端部を相互に密着させるように取付ける。

④合いじゃくり目地

外装材の重ね代及び隙間は指定寸法を確保し、上実・下実のいずれかの端部を相互に密着させるように取付ける。

⑤突付け目地

目地部において、外装材に隙間が生じないように突付けて、取付ける。

(9) 中空部断熱材の取付け

断熱材を柱、間柱、中間柱等の間に充てんする。必要に応じて中空部断熱材吹込み施工用ネットを併用する。

(10) 防湿気密フィルムの仮留め

必要に応じて、防湿気密フィルムをたるみ、しわ等が生じないようにブチルゴムテープ等で柱、間柱、中間柱等に仮留めする。継ぎ目の重なりは100㎜以下とする。

(11) せっこうボードの取付け

せっこうボードを、あらかじめ現場の寸法に合わせて切断し、φ3.8㎜以上×L25㎜以上の鋼製等ねじで200㎜以下の間隔で柱、間柱、中間柱、受材等に留付ける。

なお、せっこうボードの目地部は、必要に応じて目地処理材を施し、平滑に仕上げる。